



東京都立 新宿高等学校

■学校長／加藤 隆
■創 立／大正10年
■生徒数／951名(男433名、女518名)

沿革

大正10年、府立第六中学校として創立。昭和25年、東京都立新宿高等学校と改称。平成15年、進学重視型単位制高校に改編。平成19年、進学指導特別推進校に指定。平成24年、90周年式典挙行。

特色ある教育

本校は進学指導特別推進校として、難関国公立大学への進学に対応した教育課程を編成。「進路は補欠なき団体戦」の合言葉のもと、授業を重視し（土曜授業も実施）、週末課題、補習・講習（1700時間）、勉強合宿等、生徒が「仲間と共に頑張ることをとおして、難関大入試を突破できる」学校づくりを組織的にしている。数学・英語・古典・化学では習熟度別授業を実施し、学力定着に努めている。放課後の自習室では、毎日100名以上の生徒が午後8時まで集中して勉学に励んでいる。創立以来、「全員指導者たれ」を校是とし、時代を担う、心優しくたくましいリーダーを育てるために、「毎日が文武両道」とし、学習面だけでなく、部活動・学校行事等生活面においても生徒を鍛えて伸ばすことを重視している。

学校行事

- 【4月】 部・同好会・委員会紹介、セミナー講習（1年）
- 【5月】 運動会、遠足（2年）
- 【6月】 新宿・戸山部活動対抗戦
- 【7月】 球技大会、館山臨海教室（1年）今年度のみ休止（なお代替案を検討中）
- 【8月】 部活動夏期合宿、館山臨海教室（1年）今年度のみ休止（なお代替案を検討中）
- 【9月】 朝陽祭（文化祭）
- 【12月】 合唱コンクール
- 【1月】 修学旅行（2年）
- 【2月】 マラソン大会
- 【3月】 百人一首大会



校舎写真▲



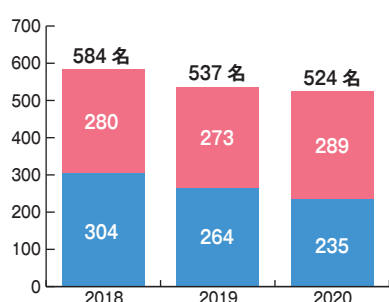
MAP▲

交通

JR線新宿駅新南口・東南口、東京メトロ丸ノ内線新宿三丁目駅より徒歩4分。東京メトロ副都心線新宿三丁目駅より徒歩2分。都営新宿線新宿三丁目駅より徒歩4分。京王線・小田急線新宿駅より徒歩10分。西武新宿線西武新宿駅より徒歩11分。

過去入試データ

■受験者男女比



入試結果のデータ一覧（応募・受験・合格）

年度	募集者数	応募者数			受験者数			合格者数			実質倍率
	男女合計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男女合計
2018	284	353	302	655	304	280	584	146	141	287	2.03
2019	284	305	301	606	264	273	537	133	155	288	1.86
2020	284	271	305	576	235	289	524	131	157	288	1.82

※上記は一般入試の数値です。

▶ 入学者決定方法 (2020 年度)

推薦入試 (定員の10%)

募集定員	配点	
男女32名	調査書点 5段階×9教科× $\frac{450}{45}$	450点
	集団討論・個人面接点	180点
	小論文点	270点
	合計	900点

一般入試 (定員の90%)

募集定員	配点	
男女284名	学力検査100点×5教科× $\frac{700}{500}$	700点
	調査書点 (主要5教科+技能4教科×2) × $\frac{300}{65}$	300点
	合計	1000点

▶ 2020 年度 入試問題分析

英語 ②は小問6問の対話問題で、指定文の書き換え問題が文脈に合うように文を補充する問題に置き換えられたことで、文補充問題が2問になった。本文中の語句補充と内容一致問題、語順整理問題で内容も前後の文脈を正しく取り、指示代名詞が指す内容を丁寧にとらえれば答えられる問題である。③は生物模倣技術に関する説明文。本文の内容を問う問題2問、文挿入問題、適文選択問題、文整序問題が各2問の全6問。文章内容とその流れを重視する問題が多く、文章全体を細かく読む必要がある。④は物語文。各設問は文整序問題、時系列の文整序問題、適文補充問題が2問、内容一致問題2問と文章の内容に沿った35語以上45語以内の英作文の7問。英作文の語数増加と文挿入問題の形式変更のため、④だけでも長文の語数が減った代わりに出題の難度が上がっている。

読解のスピードや、正確な回答が求められる問題が多く、こういった問題に対応するためには普段の授業から知識の定着と同時に、読解問題一つ一つに対して解く前に目標時間を意識して英文を読むことが重要である。

数学 大問4題、小問17問の問題構成。昨年度よりも小問が2問増。小問数が増えた一方で、記述解答型の問題がなくなり、語群からの選択適語・適文補充形式になったのが特徴的。①は小問形式の問題で、〔問1〕～〔問3〕基本計算問題、〔問4〕確率、〔問5〕平面図形の角度、〔問6〕連立方程式の文章問題、〔問7〕円の作図の計7問。標準的なレベルの問題である。この①でしっかりと得点が取れることが合格の鍵を握るので、十分な対策が必要である。②は関数で、放物線を題材にした典型的な問題である。ただし、設定数値がやや大きいため、計算間違いをしないよう基礎計算力をつけておく必要がある。③は平面図形の問題で、3:4:5の辺の比を有するエジプト三角形が題材だった。証明は適語補充型で平易だったため、ここは確実に得点したい。〔問3〕では線分比と面積比の関係及び角の二等分線定理を利用する問題だった。ただし、仮にこれらの知識が思い出せなかったとしても、座標幾何による機械的計算で解答できる。正確な計算力は、平面図形の大問においても重要だ。④は立体図形で、立方体上を移動する動点の問題。4問中3問が求積問題だったため、面積・体積どちらの計算も習熟しておくこと。中学校三年間で学んだ全分野の典型的な問題を、偏りが無いように解けるようにしておくことである。

国語 大問構成は、例年通り4題で小問数は昨年度から2問減って28問となったが、問題の分量は例年並みである。

①の漢字の読み取り・書き取りは昨年度に引き続き、読み取り4問、書き取り4問、計8問という形式での出題。②は重松清『あの年の秋』から小問7問での出題。「わけ」「様子」「気持ち」を問う選択問題、表現についての選択問題が7問出題された。心情・様子を説明する穴埋めの記述問題は昨年度3年ぶりに出題されたが、今年度は出題されなかった。③は細川英雄『対話をデザインする』から小問7問の出題。昨年度に引き続き、選択問題が4問、抜き出しの問題が1問、200字作文が1問出題されているほか、本文中の語を用いての記述問題が1問加わった。200字作文のテーマは『「対話」についてどのように考えるか』。④は杉山英昭『古典聚影』から小問6問での出題。例年と同じく、本文の内容に関する選択問題3問と、古典の引用部分からの抜き出し問題1問が出題された。また、文法事項を問う問題と熟語の構成を問う問題が2つの小問として出題された。④からの出題は小問数が7問から6問へと少なくなった。

全体的に問題は素直なものが多いが、根拠をもって選択問題を解答できる力を身につける必要がある。

▶ 2020 年度 大学合格実績

実績数値は現役・浪人の合計数。() の数字は現役合格者の数。

東京大 3名(2名)	大阪大 1名(1名)	東京外語大 2名(2名)	早稲田大 84名(63名)	青山学院大 37名(36名)
東京工業大 10名(7名)	東京医科歯科大 2名(1名)	東京学芸大 6名(6名)	慶應義塾大 31名(23名)	立教大 67名(54名)
一橋大 8名(7名)	筑波大 7名(5名)	東京農工大 10名(9名)	上智大 26名(16名)	中央大 76名(58名)
北海道大 2名(1名)	千葉大 8名(8名)	横浜国立大 11名(9名)	東京理科大 60名(37名)	法政大 95名(76名)
東北大 7名(5名)	お茶の水女子大 2名(2名)	東京都立大 11名(10名)	明治大 116名(92名)	学習院大 12名(10名)
国公立大合計 111名(91名)				